



# 新渡戸記念 中野総合病院 だより

Nitobe Memorial Nakano General Hospital

## 理念

新渡戸稲造博士の精神(誠意と  
思いやりの心)を基にした医療  
を誠実に実践し、疾病を抱えた  
人を真気で支援する

## 基本方針

- ① 安全で質の高い医療の推進
- ② 急性期医療の充実
- ③ 地域医療の拡充と  
地域医療連携の強化
- ④ 臨床研修指定病院としての機能の充実
- ⑤ 災害時医療の拠点病院としての機能の充実
- ⑥ 職員の教養・知識・技術の向上と待遇改善
- ⑦ 経営の安定化

## 「幅広さ」と「専門性」を兼備した外科として

新渡戸記念中野総合病院 外科医長 川村 雄大

当科の診療の特長は、「幅広さ」と「専門性」を高いレベルで兼ね備えている点にあり、それを支えているのは病院全体のチームワークにあると感じています。

外科が対象とする疾患は広範で、悪性腫瘍(がん)をはじめ、ヘルニアや痔、気胸などの良性疾患、虫垂炎、胆嚢炎などの急性疾患、そして緩和的治療まで多岐にわたります。それらの疾患について、外科学会、消化器外科学会専門医・指導医や、消化器内視鏡専門医、がん治療認定医、食道科認定医等の専門資格を持つスタッフでカンファレンスを行い診療しています。

消化器がん(食道、胃、大腸・直腸、肝臓、膵臓など)に対する手術は、多くを鏡視下に行っています。当科には内視鏡外科技術認定医が3名(ヘルニア、胃、大腸)在籍しており、その高度な技術に裏打ちされた指導のもと次世代の外科医も全力で診療に当たっています。もちろん、病気の進行度や手術歴の有無などを勘案し、開腹手術を選択することもあります。また、各種治療ガイドラインに準拠した標準的な化学療法をすべての消化器がんに対して行っております。最近免疫チェックポイント阻害剤の使用も増えてきました。乳がん診療についても大学からの派遣医師による専門外来を設け、標準的な手術や化学療法を積極的に行っています。

鼠径部ヘルニアに対しては腹腔鏡下手術(TAPP)を早くから導入し、安定した成績をおさめています。従来法に比べて、傷も小さく目立たず、術後疼痛が少ないため満足度の非常に高い治療法です。

また、上下部消化管内視鏡検査も大きな診療の柱です。検診や術後の定期フォローだけではなく、大腸ポリープ

切除(EMR、ポリペクトミー)、早期胃癌・食道癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)や、内視鏡的止血処置や内視鏡的逆行性胆管膵管造影(ERCP)などの緊急処置も、内科と協力しながら数多く扱っております。さらに、腹腔内膿瘍等に対する緊急処置として、X線透視下/CTガイド下経皮的ドレナージ治療も積極的に行っています。

救急診療にも力を注いでいます。毎日外科医師が当直業務に当たり、休日・夜間の緊急手術等にも対応しております。また、万が一当科の守備範囲を超えた領域の疾患と判断した場合等については、速やかに他院へご紹介させて頂くこともあります。

医師には、ときに夜を日に継いで診療に当たらなければならないこともあります。疲労が溜まったときにはカバーし合って休息を摂るように心がけるなど、我々自身の体調管理も重要な責務であると考えていますが、そのようなハードワークを支えてくださっているのは、看護部を始めとしたコメディカルや、他の診療科との有機的な連携であり、ひいては新渡戸記念中野総合病院全体の「チームワーク」であると言えます。

新型コロナウイルス感染症の猛威が予断を許さない状況が続きますが、病気は待つてはくれません。かつて、外科の大先輩から言われた「外科医にとって手術は日常のことだが、患者さんにとっては一生に一度の一大事である」との言葉を思い起こしながら、創設者新渡戸稲造先生が示された、「誠意と思いやりの心」を基にした医療を誠実に実践すべく、一層努力して参りたいと思います。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



## 火災予防業務協力者表彰式で表彰されました

2022年11月9日(水)、なかのZERO西館小ホールにて東京消防庁中野消防署「令和4年火災予防業務協力者表彰式」が開催されました。新渡戸記念中野総合病院自衛消防隊が「自衛消防活動体制の確立を図るとともに、積極的に訓練に励み災害防止に寄与した」として東京消防庁予防部長より表彰されました。また、横井事務局長が「防火管理者として災害の発生防止に寄与した」として中野消防署長より表彰されました。



## 消防・避難訓練が行われました

2022年11月16日(水)午後3時半より、4階第5病棟において夜間を想定した消防・避難訓練を実施しました。

訓練は火災発生時の行動を簡潔に記したアクションカードをもとに、火災発生時の周知、119番・防災センターへの通報、初期消火が行われました。また患者役の職員を配置し、火災が発生していない安全なフロアへ避難する「水平避難」や防火戸の操作訓練が行われました。

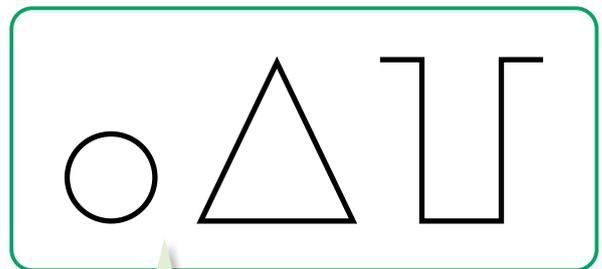
今後も積極的に訓練を実施し、院内の防火防災に励んでまいります。



## いきいき体操 14 頭を柔らかくする編

リハビリテーション科 技師長 柳澤 正也

街を歩いている時、どんなものを見えていますか？公園で遊んでいる子どもたち、四季で表情を変える草花など、思い出してみるといろいろなものに目を向けていますね。「目」つまり「視覚」から得られる情報は、脳の様々な部位に伝えられます。そのため、「目」をトレーニングすることは脳の活性化に繋がります。



今回の「目」のトレーニングは、上の3つの図形を10秒間で見て覚えましょう。その後、図形を見ないで1分以内に別の用紙に覚えた図形を描きます。楽に描くことができたなら、次は覚えた図形を3分後に描く、その次は5分後、10分後……と少しずつ間隔をあげて難しくしましょう。覚えるものは「文字」ではなく「図形」であることがポイントです。

# 病院からのお知らせ

## 年末年始の診療体制について

2022年12月29日(木)～2023年1月3日(火)は休診となります。  
急な病気やケガで受診を希望される方は、お電話でお問い合わせください。  
(診療科目・症状によっては、当院で対応できないこともあります)

救急受付電話番号 **03-3382-9991**



## 区民健康講座 動画配信のお知らせ

区民健康講座は新型コロナウイルス感染拡大のため、2020年度より開催を見合わせておりましたが、この度、当院のホームページで動画配信を行うことになりました。  
2022年12月1日(木)より配信いたします。  
是非ご視聴ください。

今回のテーマ 「大腸がんの予防と健診について」 消化器外科部長 吉田 剛

人気メニューのレシピをご紹介します!

### 栄養科 病院食通信 13



#### 【くず餅】

当院のたんぱく制限食の一品としてお出ししているくず餅を紹介します。調理工程がシンプルかつ低たんぱく質でエネルギーを摂取できるメニューです。当院のくず餅は軟らかく食べやすい関西風仕立てとなっております。

#### 材料 (1人前)

くず粉…………… 20g  
水…………… 120g  
黒蜜…………… 30g

栄養成分表示 (1食あたり)  
エネルギー 177kcal / たんぱく質 0.6g / 脂質 0g / 炭水化物 44.2g (食物繊維 0g) / 食塩相当量 0g

#### 調理方法

- 1 くず粉に水を加えてしっかり溶かした後、鍋に入れ強火にかける
- 2 沸いたら弱火にして15分ほど焦げないようにゆっくりとかき混ぜる
- 3 くずが透明になり艶が出てきたら、粗熱をとりバットに入れる
- 4 冷蔵庫で1時間程度冷やしたら賽の目に切り、器に盛る。黒蜜をかけて完成です

#### ポイント

弱火で15分間しっかり加熱することで、粉っぽさがなくなり、きれいに仕上がります。

## 「がん哲学外来」のご案内

当生協「新渡戸稲造記念センター」の樋野興夫センター長が全国に展開している「がん哲学外来」が当院でも開設されています。「がん哲学外来」は「がん」にまつわる様々な悩みを樋野興夫センター長との対話を通して解消する外来です。東京医療生活協同組合の組合員(ご家族)の方ならどなたでも無料で予約できます。

お電話で予約申し込みを受け付けています

電話 03-3382-1507  
9時～16時30分(日曜、祝日を除く)

開催予定日 12/7(水)、12/15(木)  
12/21(水)、12/22(木)  
1回約50分(1日4組まで)

## ご意見をお寄せください

東京医療生活協同組合は、皆様のご意見を当生協の運営に活用させていただいております。皆様のご意見は右記宛先までお送りいただきますようお願いいたします。なお、ご意見をお送りいただきます際には、ご氏名に加えて必ず組合員番号(組合員証に第〇〇〇〇〇〇号と記載されています)をご記入いただきますようお願いいたします。

宛先

東京医療生活協同組合 渉外・広報課

住所 〒164-8607  
中野区中央四丁目59番16号

メール syougai@nakanosogo.or.jp

FAX 03-3381-4799

## 新渡戸 の 言葉

眼には見えないところの動き初めを、武道では「起(おこり)」と言うそうです。人を救う、善を行う、悪を避ける、物事を始める、その行動(to do)の源となる心の動き、「時は今」と決断する心の構え(to be)を新渡戸先生は説いています。90年前に先人達が苦境の中で心を奮いたたせ、東京医療利用組合を発起し、当院を設立した志がここにあると思います。

コロナ禍が第8波へ突入り、週交代のコロナ班も11月に第100班を超え、500名以上を診療して参りました。全職員が地域の方々の命を救うために今も体を張って粛々と努力しています。新型コロナでは発症前2日間の元気な時期にもピークに近いウイルス量を盛んに排出しています。インフルエンザとは異なり、COVID-19には切り札となる治療薬がまだありません。換気とともに、重症化を防ぎ後遺症を軽減するワクチン接種が重要です。

繰り返し押し寄せ、一筋縄ではいかない新型コロナの猛威には、「時は今」の的確な判断と挫けない心・平常心が求められています。

新渡戸記念中野総合病院副院長 山根 道雄



時節到来を待つは徒いとひの業。人を救ふの時、善をすべきの時、悪を避くべきの時、事を始むるの時、何時も眼前足の元にある。何んぞ他日を待つまつの要あらん。徒らに時運を待ちて暮らしつゝ、

飢の境に近寄りにけり

散らぬ間に今一度も見てしかな

花に先きだつ身ともこそなれ

『一日一言』十二月十三日

新渡戸 稲造